

# 令和5年度 福井県立嶺南東特別支援学校 学校関係者評価書

(問) ・学校評価書の成果と課題が適切かどうか。

・成果と課題を踏まえた今後の改善策・向上策が適切か。

(意見を聞いた方)

P T A 会長・P T A 副会長3名・就労継続支援B型事業所長

計5名

(意見欄)

## ○学び1 教育課程・学習支援

- ・高等部に近づくほどAよりBの割合が多い。外進の子供さんについては学校が変わって、親の思いもそれぞれ違うため、丁寧な懇談が必要だと思う。また内進の保護者からは人数が増え、「もう高等部だから」と支援が急にうすくなると聞いた事がある。年齢によってではなくその個人個人にあった支援はそのまま続けていく必要があると思う。
- ・中学部は大事な時期なので懇談等で課題はしっかり話し合うべき。中学部の先生は高等部の事、就職場所について知っておいてほしい。
- ・保護者アンケートの結果の数字では学年が上がるごとにB評価が増えています。現在の生徒さんの状態と保護者さんの考えに乖離があることもあるでしょうし、全てがA評価になることはとても難しいことだと思います。高学年になるほど、将来の進路等についての目標も定まってくるので、現在地と目標そしてこれからの支援といったことを細かに伝え、共有することが大切なポイントとなると感じました。

## ○学び2 研究・研修

- ・先生方の縦割りの取り組みは良いと思う。子供が集中できなかつたり落ち着かなかつたりするのは環境も大きく影響していると思う。
- ・「卒業後に目指す姿」について、縦割りの学部の先生方で情報交換をしていただけているという事で、その学部だけにとどまらず、共有しながら支援を考えてくださっている事が分かりました。これからもより良く生徒一人一人に合わせた授業、支援をお願いしたいです。
- ・つながり、系統性ということが大切なポイントだと感じました。共有するためにはそれぞれの部門での考えや実践を発信し、調整する過程も必要となりますが、工夫を凝らし教職員間で時間を共有することができるように改善されたことなど、基礎が着々と固まって来ていると思います。既存のあり方を見直すことの大切さを感じました。児童生徒さんの変化を糧に進めたいと考えています。

## ○学び3 情報管理

- ・今の授業でどれくらいタブレットが使われているのか、保護者の方に伝わってきません。親に上手に話す子供たちばかりではないので学校からの発信がなければ伝わりません。時代の流れでタブレットやパソコンを使えるのは当たり前になってくるので、どんどん授業に取り入れてほしいです。自分で調べ方を考えるだけでも力になると思う。
- ・今は小学1年生からタブレットを使って勉強や宿題をしているし、視覚支援の必要なお子さんが多いと思うので、タブレットをどんどん活用していただきたい。先生はタブレット、パソコンの授業の取り組みに「できた」となっているが、保護者は使用している様子を知らない。もう少し取り組んでほしかったという意見があるので、もっと情報を伝えてほしい。
- ・個人情報の取り扱いでは十分な配慮とルールの徹底がなされていると思います。PCやタブレットはこれからの教育・学習支援に大きな変化が見込まれ、導入が進んでいることと思いますが、進路においても機器に慣れ親しむことが有効に働くのではと考えます。

#### ○学び4 寄宿舍

- ・学校と寄宿舍との情報共有がすばらしい。寄宿舍を利用し始めて4年目、制限の年、保護者参加行事の前期は花火大会、後期はクリスマス会だったが、クリスマス会は懇談等行事の多い時期なので参加しにくい。また週1宿泊なのに部屋に1人とは少しさみしいと思う。
- ・改善、向上策として将来につながる支援に取り組んでいく、高等部生のための支援として捉えるのではなく、小・中学部生の将来も見据えての早めの支援相談をこれからもお願いしたい。
- ・他人と共同生活する中で身に着けるべき事柄を、実体験に基づいて習得できる環境は人生の中でも貴重なものだと思います。安心な環境の下で、自分のことを自分で行うことを身に付けていただければと考えます。当事業所でも寄宿舍経験がある方はできることが多く、長い目で見れば自分らしい生活を過ごすことができるのではないかと感じています。

#### ○安心・安全な生活5 児童生徒支援

- ・中学部の多感な時期が3年で終わり、高等部は外進の生徒も増えるため、かなりのステップアップになると思う。早い時期から高等部とのつながりを持つべきだと思う。
- ・先生方の取り組みとして100%になっているが、一部の保護者の回答で「登校しぶりがあり、不安な気持ちの生徒がいた」となっています。この様子は担任の先生もわかっていたのでは？保護者が相談できていなかったのであれば、相談しやすい環境にしてほしいし、もっと生徒の様子に気づいてあげてほしいです。

#### ○安心・安全な生活6 保健安全部

- ・マスクは自由と言いつつ、スクールバスの中など年齢が低くなるほど子供の判断では難しい場面もある。
- ・避難訓練は大事だが、本当の時はパニックなど混乱も予想されるのでその対策も必要かと思う。

#### ○家庭や地域社会とのつながり7 進路支援

- ・小高あたりから自分の子はどうか…ではなく、どういう進路があるのか保護者への情報提供が必要かなと思う。特に中学部ではそれを知った上で高1春の実習先を決めていくなど、早くから時間をかけた方がいいと思う。
- ・福祉事業所での見学をぜひしていただいて、取り入れる事があればお願いしたい。施設訪問研修はだいたい平日なので参加しにくい方もおられるかなと思う。
- ・進路についてはいろんな生徒さんがいらっしゃって障がいの度合いも様々であり、就職となると厚い壁に感じる方が多いと思います。普段から懇談の時でも学校での様子、家の様子だけの話ではなく、保護者ももっと知りたいし、紙で読むだけでなく早いうちから話し合いができるとうれしいかなと思います。
- ・進路に対して希望のある生徒さんへの支援よりも、まだ漠然とした希望で進路が定まらない方の支援が難しいのではないのでしょうか。簡単に決められるものではないので当然ですが、選択する機会を増やすことが大切と考えます。情報提供や実際の見学、手続きの内容等々、準備と時間が必要になりますが、個別支援の実践がどれだけできるかにかかってくると思います。現状も実習や打ち合わせなど、十分にまた丁寧にされていると感じています。

#### ○家庭や地域社会とのつながり8 PTA・交流

- ・PTAもやっと人数制限なく活動出来るようになったのでこれからかなと思う。意見箱もあるので役員だけでなく保護者の意見も聞きながら、興味ある活動をやっていくといいと思う。もちろん先生方も参加できる形が望ましい。
- ・居住地交流は送迎の関係で仕事を持っている保護者には希望しにくい。ライオンズとの交流の様子も伝わりにくくお便りなどを出してほしい。

- ・学校外での活動（交流）と学びをつなげることが成長を加速させることもあると考えます。社会とのつながりの経験が新たな興味やその後の学びに良い影響を与えられるような取り組みであってほしいですし、今後も継続していただきたいと思えます。

#### ○家庭や地域社会とのつながり 9 教育相談

- ・保護者へのアンケートは確かにC・D回答者のみだけでなく、A・Bを回答された人にも意見を出せる記述欄があると良いと思う。

#### ○全体を通して

- ・先生方が研修や研究会などですごく努力されていることが分かった。教職員アンケートの評価がとても高いのに比べ、一部の保護者はそう感じていないというズレも少し感じる。
- ・授業をすべて把握しているわけではないが、社会で必要となる国語や算数の授業にもっと力を入れると良いと思う。特に高等部、寮生活もあって難しいのかもしれないが宿題が少ない。下校が早く学校では時間が限られるが、卒業したらもう勉強しないと思うので、今必要だと思う。読み取り、音読、算数なら単位など、楽しく頭を使うプリントなども活用すると良いのでは。
- ・運動部のバドミントン大会やバスケ大会、木工班のアビリンピック、サービス班のそうじ検定、サービス班がイベントで嶺南東のブースを出して販売していることなど、全員対象じゃない行事について知らない保護者が多く、学校としてお便りで発信して欲しいと思う。
- ・懇談希望が紙ではなく、スマホを使えたのは良かった。通信アプリは早いのでどんどん利用できるようにしてほしい。特に寮利用者は保護者へのお便りが届くのが遅いので。
- ・児童、生徒、保護者目線をもって取り組みを引き続きお願いしたい。
- ・全ての項目が高評価であるという事は、とても素晴らしいと思えます。今度も評価を落とすことなく、今年度以上の評価になることを期待しています。
- ・全体的に先生方、保護者の評価は満足、ほぼ満足となっていて良いなと思えました。でも一部の場面で保護者の方の意見で不満があったので、そこをそのままにせず解決策を考えていただけたらと思います。
- ・今年度も高い達成率を維持されており、教職員の皆さんの絶え間ない取り組みの成果だと考えます。障害福祉サービス事業所の視点でのお答えとなるため、設題にそぐわない回答もあるかと思いますが、回答の背景には、卒業後の生活のために本人さんを中心とし、さまざまな機関が連携して支援を考える仕組みができつつあるということがあります。住み慣れた町で生活を継続するためには、共有・連携ということがますます重要となりますので、今後もさらに連携強化ができればと考えています。

（学校関係者評価を踏まえた今後の取組について）

#### ○学び1 教育課程・学習支援について

今後も保護者のニーズに応えるべく、幼児児童生徒の学びに向かう姿や成長、今後の課題を適切に丁寧に伝えることに努めていく。特に中学部・高等部生との保護者のニーズをしっかりと受け止め、必要な情報提供や提案を行うことに努める。

#### ○学び2 研究・研修について

学部等を解いた教職員の縦割り班による研究に対して高い評価をいただき、大変ありがたい。学部同士のつながりや系統性を大切にしながら引き続き指導支援にあたり、本校の研究を進めていく。

#### ○学び3 情報管理について

校内では各学部ともにタブレットなどを使った学習への取組を進めているが、保護者への発信については不十分であり、早急な改善が必要である。活用事例について連絡帳や学級通信、情報管理日より、ホームページなどを活用しながら発信に努めたい。

#### ○学び4 寄宿舎について

寄宿舎の生活の中での学びについて評価いただけたことは大変ありがたい。共同生活の中での児童生徒それぞれの学びを大切にしながら、将来につながる支援を目指していきたい。今後も学校と寄宿舎との情報交換を密にしながら、児童生徒の支援を続けていく。

#### ○安心・安全な生活5 児童生徒支援について

学校生活における児童生徒の様子を十分に把握し、保護者とも情報共有を図りながら児童生徒や保護者が相談しやすい環境を整えていく。また学部間の連携を進め、児童生徒のライフステージにおける変化を十分に理解しながら支援を行っていく。

#### ○安心・安全な生活6 保険・安全管理について

いつ起こるかわからない災害に対し児童生徒が心構えをもてるように、児童生徒の特性に配慮しながら計画的に避難訓練を行い、避難する力を養っていく。また日々の生活の中でも安全に対する意識を高められるように支援していく。

#### ○家庭や地域社会とのつながり7 進路支援について

引き続き「進路の手引き」や「進路だより」を通して全校への情報共有を行い、職場見学や施設訪問などを通して企業や福祉事業所等との連携を図っていく。早い段階から保護者懇談会でも話題にしながら十分な情報提供を行い、時間をかけて選択の機会を増やせるようにしていく。

#### ○家庭や地域社会とのつながり8 PTA・交流について

保護者の方にも広く意見をいただきながら内容を検討し、有意義なPTA活動となるようにしていく。交流活動については内容やその時の児童生徒の様子を連絡帳や学級通信、ホームページなどで発信し、保護者との情報共有を図っていく。

#### ○家庭や地域社会とのつながり9 教育相談について

アンケートの回答用紙について改善を行い、広くご意見をいただけるように工夫していく。

#### ○全体を通して

どの取組に対しても忌憚なくご意見をいただき、評価していただいたことは大変ありがたかった。今年度は特に「つながり」や「系統性」、「発信する力」について多くの意見をいただいた。評価いただいた内容をもとに令和6年度の具体的取組について検討し、よりよい学校運営につなげていきたい。